

教科名	理科	科目名	物理基礎	履修学年	中学 (高校)	1年	1～7 組		
単位数	週あたり2時間	使用教科書 補助教材等	第一学習社「高等学校 物理基礎」						
担当者	古城・金牧・山本		第一学習社「プロGRESS 物理基礎」						
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。		物体の運動と様々なエネルギーに関する事象・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。		日常生活や社会との連携を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに科学的な見方や考え方を身につけている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		定期考査		課題提出 実験レポート 授業態度				
学期末の 各観点比率(%)	50%		30%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	物体の運動 <ul style="list-style-type: none"> 【速度】 ・ 速さ ・ 等速直線運動 ・ 速度 ・ 位置と変位 ・ 平均の速度と瞬間の速度 ・ 速度の合成 ・ 相対速度 【加速度】 ・ 加速度 					8	1学期中間考査	
	5								
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 等加速度直線運動 【落下運動】 ・ 自由落下 ・ 鉛直投射 ・ 水平投射 					12	1学期期末考査	
	7	(実験) 重力加速度の測定							
	8	夏休みの課題 力学演習(運動の表し方・落体の運動)							
2	9	力のはたらきとつりあい <ul style="list-style-type: none"> 【さまざまな力】 ・ 力 ・ 重力 ・ 糸の張力 ・ ばねの弾性力 【力の合成・分解とつりあい】 ・ 力の合成と分解 ・ 力のつりあい ・ 作用・反作用の法則 					9	2学期中間考査	
	10	運動の法則 <ul style="list-style-type: none"> 【運動の3法則】 ・ 慣性の法則 ・ 運動の法則 ・ 運動方程式 							
	11	<ul style="list-style-type: none"> 【運動方程式の利用】 ・ 運動方程式の立て方 ・ 斜面上における物体の運動 ・ 連結している2つの物体の運動 【抵抗力を受ける運動】 ・ 静止摩擦力 ・ 動摩擦力 					13	2学期期末考査	
	12	(実験) 運動の法則							
		冬休みの課題 力学演習(力のつり合い・運動の法則・仕事と力学的エネルギー)							
3	1	仕事と力学的エネルギー <ul style="list-style-type: none"> 【仕事と仕事率】 ・ 仕事 ・ 仕事の原理 ・ 仕事率 【運動エネルギー】 ・ エネルギー ・ 運動エネルギー ・ 運動エネルギーの変化と仕事 【位置エネルギー】 ・ 重力による位置エネルギー ・ 弾性力による位置エネルギー 					10	学年末考査	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保存力と位置エネルギー 【力学的エネルギー】 ・ 力学的エネルギー保存の法則 ・ 保存力以外の力がする仕事と力学的エネルギー 							
	3								

教科名	理科	科目名	化学基礎	履修学年	高校	1年	1～7組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	高等学校 化学基礎 数研出版						
担当者	鴨下 潮音 米山 裕		プログレス 化学基礎 第一学習社						
学習目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。		自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				
各観点の授業内評価方法等	定期考査・小テスト		定期考査・課題提出		ノート提出・課題提出				
学期末の各観点比率(%)	50		30		20				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分 1	評価区分 2
1	4	<第1編 物質の構成と化学結合> 第1章 物質の構成 1. 混合物と純物質 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 1. 原子とその構造 2. イオン 3. 周期表 第3章 粒子の結合 1. イオン結合とイオンからなる物質 2. 共有結合と分子 3. 配位結合 4. 分子間にはたらく力 5. 高分子化合物 7. 金属結合と金属結晶 6. 共有結合の結晶					10	中間考査	
	5								
	6						10	期末考査	
	7								
8									
2	9	<第2編 物質の変化> 第1章 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と物質質量 第2章 酸と塩基の反応 1. 酸・塩基 2. 水素イオン濃度とpH 3. 中和反応と塩 4. 中和滴定					11	中間考査	
	10								
	11						12	期末考査	
12									
3	1	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. 酸化還元反応の利用					15	学年末考査	
	2								
	3								

教科名	理科	科目名	生物基礎	履修学年	中学 高校	1年	1～7 組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	高等学校 生物基礎（第一学習社）						
担当者	榊山 裕子 水庭 聡一		プログレス 生物基礎（第一学習社）						
学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験、課題学習を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価基準	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。		生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。また、文章や図・グラフなどから得られる情報を科学的に分析して思考し、判断している。		生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。また、学習の前後での自己の変容を認識している。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査(9割)、小テスト		定期考査(1割)、思考問題 レポート		振り返りシート 授業態度				
学期末の 各観点比率(%)	60%		20%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分 1	評価区分 2
1	4	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性	①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来		5	中間考査			
	5	第2節 生物とエネルギー	①生物とエネルギー ②代謝とATP ③代謝と酵素		5				
	6	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体と構造	①遺伝情報とDNA ②DNAの複製と分配		4	期末考査			
	7	第2節 遺伝情報とタンパク質	①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム		5				
8	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 情報の伝達と体内環境の維持	①恒常性と神経系		3	中間考査				
9		②恒常性と内分泌系 ③体内環境を調節するしくみ ④血液凝固		6 2					
2	10	第2節 免疫	①生体防御 ②自然免疫 ③獲得免疫 ④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活		5 3	期末考査			
	11	第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移	①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ		3				
	12	第2節 バイオーム	①遷移とバイオーム		3				
3	1	第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と生物の多様性	①生態系の成り立ち ②生態系における生物どうしの関わり		5	学年末考査			
	2	第2節 生態系のバランスと保全	①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策		4				
	3	生物基礎の学習の振り返り			2				